

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500483
法人名	株式会社 松寿
事業所名	グループホーム松寿苑
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字本木室1005-8 (電話) 0944-86-2437
評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5階
訪問調査日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(平成20年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	12人, 非常勤 10人, 常勤換算 11.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造及び木造	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成20年8月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	61 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福田病院、宿里医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ご当地の特産である木工業を営んでいた工場と邸宅を改造した2ユニットのホームである。和風棟と洋風棟に分かれており、共に広々とした建物である。「地域の発信者」になりたいという設立当初からの管理者の強い思いがあり、行事紹介や散歩時には積極的に声かけを行い、少しずつ地域に馴染めるように努めている。一人の職員の幼児が保育園の送迎をホームの前で受けていることから、園児等と利用者が顔馴染みになり、ひと時を共に楽しく過ごすことが高齢者の喜びとなっている。職員も気取らず明るい笑顔で利用者に接し、ホームの理念である「安心・笑顔・信頼」を実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は職員会議で報告し、改善に向けてできる項目から取り組んでいる。全職員は評価の大切さを再確認し、日々の活動の向上に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットの責任者が担当の職員に聞き取りをしたり、評価表に記入してもらったりして全員で評価に取り組み、責任者がとりまとめ、管理者と話し合って作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、民生委員、地域住民、行政、ホーム職員等が参加している。ホームの活動状況や問題点、外部評価などについて参加者からの貴重な意見や助言を受けている。参加者から活発な意見が多く出され、ホームのサービスの質の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回の支払い時には家族の訪問があり、管理者、職員は話しやすい雰囲気づくりに努めている。何気ない会話や表情から家族の思いを汲み取ったり、職員から親しく話しかけて、苦情や、意見が出やすいように努めている。出された意見は職員会議で話し合って毎日の活動に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	七夕祭り、敬老会などには、地域の高齢者を招待することもある。民生委員の方から地域行事を教えてもらい、利用者と職員が参加し地域や住民との触れ合いの場となっている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔・安心・信頼」をホームの理念として、日々利用者がその人らしく暮らせるように支援されているが、地域との関係性についての明示がない。	○	地域住民と共に暮らし続けられるように、地域との連携を理念にかかげられることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや、月一回の職員会議のなかで理念の再確認や実践状況を話し合い、職員が立ち戻ることで日々の実践に向けての取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年2月に行われる地域の文化祭に参加している。近くを散歩するとき地域の住民に声を掛けたり、ホームの食材は地域の方からも購入するようにして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、リーダーは職員から聞き取りをしたり、職員が記入することで項目一つひとつの理解を深め評価を活かせるように取り組んでいる。改善項目は全職員で話し合って取り組みやすいところから実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施される運営推進会議には、活動状況や問題点、ホームで取り組んでいること、外部評価結果などを報告し、意見や助言を頂き、運営に反映できるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者への対応に苦慮したときや日々の活動での些細なことでも気楽に相談できるように日ごろから連携を保ち、サービスの質の向上に活かせるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修で制度について学習したことを職員に伝達研修をして、日々の活動に活かせるように取り組んでいる。資料を常備し、利用者、家族には契約時や訪問時に説明ができるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回請求書を郵送するとき、利用者の健康状態、近況、聞き取った思い、職員に関することなどを担当者が書いて同封している。また、2ヶ月に1回のホーム便りを発行しており、それも2月に1回請求書郵送時に同封している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回の支払いのための訪問時や面会時などで事業所への意見や不満が話しやすいように管理者、職員は雰囲気作りに努めている。意見や要望に関しては、職員会議や関係者と話し合っ運営や活動に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がやむを得ない場合もあるが、1ヶ月前には申し出るようにしている。利用者への影響が最小限になるように残る職員で対応に努め、引継ぎもスムーズに行っている。2ユニット間の異動もあり、日ごろから別ユニットの利用者とも顔なじみの関係を築くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、性別、年齢などの条件は設けていない。現在、10代から70代までの職員が働いている。外部研修や資格取得に対しては勤務調整など行い、支援を行っている。採用後は個々の能力が活かされて生き生きと活動ができるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用時に、利用者への接遇や人権、プライバシーに関することなどを十分に時間を設けて教育している。利用者の尊厳を損なうような言動に気付いたときは、管理者はその場で、または会議などで話し、職員育成に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の就業経験などで接遇に差が現れるため、その点に考慮しながら個人にあわせた育成に努め、職員が働きながら質の向上に活かせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員個人での交流はあるが、地域のグループホーム間の交流の実現には至っていない。地域性を考慮しながら、同業者同士の交流の実現に向け取り組みたいと思っている。	○	同業者との勉強会や相互訪問などを通じて職員のサービスの質をより向上させるためにも、地域の同業者との交流が望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学をして頂き、利用者や家族の意志で入居できるように支援している。昼間だけでなく宿泊体験ができるように体制を整えている。家族のみの場合もあるが利用者と共に見学してもらい、職員と馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の手順や折り紙の折り方など職員は利用者の豊富な経験から多くのことを学びあっている。昔の歌をふと口ずさむ利用者が忘れていた歌詞があれば職員が調べて、皆と一緒に歌うなど、楽しく過ごせる関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とかかわる中での言葉や表情から思いを汲み取ったり、家族から本人の望んでいる事を聞き取ったりして、実現に向けた取り組みを行っている。帰宅願望がある場合は近くの散歩や買い物などで対応し、実践できる支援体制について家族、職員等で話し合いをもっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的には一人ひとりの担当を決めているが、全職員からのきめ細かな情報と利用者、家族の意向、担当医師、関係者からの情報をもとに、利用者本意の介護計画を作成し、利用者、家族に了解を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には2ヶ月に1回の見直しを行っている。利用者の日常生活や健康状態からの把握、本人、家族、必要な関係者からの意見などを取り入れて、現状に即した介護計画書の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診や買い物、理美容などの送迎を行っている。職員(地域住民)の保育園児の送迎バスの危険を回避するため乗り降りの場を提供するなど、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医や希望の医療機関については本人、家族と話し合い、希望の受診ができよう支援している。受診ができない場合は往診を受けている。往診時には十分に連携がとれるように話し合いを持ち、緊急時など適切な対応が受けられるよう取り組んでいる。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時にホームの方針を説明し、利用者、家族の意向を同意書で確認している。家族の面会時は常に状態を報告し、早期より職員、家族、かかりつけ医など関係者全員が対応できるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用後の言葉掛けや対応には特に注意し、先輩の職員からも学べるよう取り組んでいる。記録や個人情報については事務所に保管し取扱いには十分注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかに決めているが、入浴や外出時間(理美容・買い物・散歩など)など利用者の望みを最優先している。職員間で調整を図りながら実現できるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な利用者へ配慮しながら、ゆっくりした雰囲気職員も一緒にテーブルを囲んでいる。食材の皮むきや下膳など利用者と職員と一緒にいき、食事が楽しく取れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日間の入浴となっているが、利用者一人ひとりのその日の気分で入りたい場合はお湯を張り、入浴日以外でも利用できるように要望に沿って支援している。利用者が拒む場合は職員が連携して言葉掛けや対応を工夫し、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな人にはカセットを探してきてあげたり、折り紙の好きな人、書道の好きな人と一人ひとりの力が発揮できるように支援している。職員は利用者の言動から能力や機能を汲み取って、楽しみや気晴らしに活かせるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社に出かけたり、その日の利用者の気分に添ってぶらっと出かけたり、四季折々には楽しみにしているバスハイクを計画し、利用者が居室だけで過ごすことがないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は車道となっているが、玄関は施錠していない。玄関とリビングを挟んでの中ドアには職員の目が届きにくいことから、また一人の居室の入口の上部には他の利用者の出入りがあり、トラブルになることから家族の了解を得て施錠している。	○	交通事情や、ホームの作りから安全を重視する事は必要であるが、全職員が鍵をかけないケアの意義を再確認し、利用者が安全に自由に入出入りができるように、家族や関係者たちと話し合いを重ねて鍵をかけないケアが実現できる取り組みが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間を想定して年2回消防署の協力を得て消火訓練を利用者と共に実施している。マニュアルを作成し、研修会などで連絡網、避難経路、器具の取扱いなどを再確認している。地域の消防団員や地域の人たちとの取り組みを検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分・嚥下など詳細に記録し健康状態を確認している。自助具などを活用し、利用者一人ひとりに応じた取り組みを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支え続けるための健康面の支援					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風棟のリビングや廊下の天井には自然の採光を取り入れるための細工がされ、壁面には、利用者の作品(折り紙、塗り絵など)が張られて明るく楽しめる空間が保たれている。和風棟は畳敷きの居間があり、田園の広がる窓からは日本庭園が眺められ、居心地よく過ごせるように工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入口には本人手書きの表札が掛けられてあったり、折り紙でつくられた色とりどりの作品が並んでいる。利用者の入居前の生活習慣を大切にし畳を取り入れたり、好みの小物入れなどを取り入れている。和風棟には襖絵の押入れが温かみを感じさせる空間となっている。</p>		